

2. 事業の概要と成果	
<p>(1) 上位目標の達成度</p>	<p>各保健センターにおける助産師の母子保健サービス利用者数は、大幅な増加は見られなかった。だが、今年度に母子保健ボランティアを育成・フォローアップした対象 10 村（ティポー保健センター管轄内 5 村とチュックサック保健センター管轄内 5 村）においては、事業実施前 2011 年 10 月時点と実施後 2012 年 6 月時点と比べて、総計妊婦健診 19 から 23 件、保健センターでの出産 4 から 6 件、産後健診 4 から 6 件、家族計画 26 から 34 件へと村単位で利用者の増加がみられた。この結果から対象の村人達は、特に周産期に関連した保健センター受診行動がより取れるようになったと言え、村人が村で母子保健ケアをできるようになる、との目標に母子保健ボランティア活動実施地区内では到達できた。</p>
<p>(2) 事業内容 (2012 年 1 月から 6 月の後半期に於いて)</p>	<p><b>1. 母子保健ボランティア (CCMN) の育成と戸別訪問活動推進</b> 新規育成中の CCMN30 名に対し、2012 年 1 月に 4 日間に渡り、州保健局の母子保健訓練担当スタッフにて産後健診推進のための戸別訪問の訓練が行われた。訓練後は戸別訪問活動のフォローアップとして各村をまわり、保健センタースタッフと共に 1 回/3 か月の割合で行った。フォローアップ時には、CCMN が訓練で得た知識をどれだけ保持しているか再確認するとともに、CCMN から保健教育を受けた周産期の女性がどの程度の知識を得たか、また保健教育の提供の仕方は十分で適切であるか、フォローアップ時以外ではどの程度活動を行っているか、などの確認を行っていった。</p> <p><b>2. 「水と衛生」活動</b> 推進衛生活動の軸となる衛生モデル村 4 村内の衛生モデル世帯 180 に対して衛生教育を、体の衛生、飲料水の煮沸、環境衛生の 3 題目について各村で一回ずつ、2012 年 1 月、3 月、5 月に行った。また 2012 年 2 月にはモデル村を対象とする衛生キャンペーンを環境衛生の題目で行った。衛生キャンペーンの環境衛生では、ごみ袋を配布し村人と共に村内の美化に努めた。</p> <p><b>3. 村での保健教育活動</b> 毎月、保健センタースタッフと保健ボランティアの協力のもと、各村で保健教育を開催した。主な題目は家族計画と予防接種についてであった。それ以外にも、特に今年はデング熱が流行っていたことから村人たちの要望も踏まえ、デング熱や衛生にまつわる保健教育も開催することもあった。</p> <p><b>4. 村と保健センターとのネットワーク支援</b> 各保健ボランティア会議、伝統的産婆会議、保健センタースタッフ会議が月毎に開催され、地域の保健情報を共有した。また 2012 年 3 月からは、新規育成された母子保健ボランティアも保健ボランティア会議へと参加してもらうようになった。</p>

	<p><b>5. 搬送サービス導入</b></p> <p>搬送サービス運営のためのガイドラインが完成し、2012年3月末にタノッチュム保健センター管轄内へ搬送カートを2台贈与し、搬送サービス委員会へ搬送カートの運営権を譲渡した。その後、搬送サービス委員会と契約を結んだ運転手4名が運転免許を取得し、雨期におけるぬかるんだ道路状態でも運転できるよう日々訓練を続けつつ、搬送サービスを開始した。</p>
<p>(3) 達成された効果 (2011年7月から2012年6月の1年間に於いて)</p>	<p><b>1. 母子保健ボランティア(CCMN)の育成と戸別訪問活動推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● CCMNをティポー保健センターとチュックサック保健センター管轄内の10村にて30名育成し、一村あたり平均7.5名の周産期にあたる女性(妊婦3.5名、産婦4名)を戸別訪問し保健教育を実施した。</li> <li>● 産後健診推進の訓練にてCCMNの知識は訓練前51%から訓練後82%へと増加した。</li> <li>● 戸別訪問された周産期女性の知識は初回(2012年3月)の49%より第二回(2012年6月)の68%へと大幅に改善した。</li> </ul> <p><b>2. 「水と衛生」活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● タノッチュム保健センター管轄内のモデル4村内の合計60世帯にトイレ資材支援を行った。</li> <li>● 4モデル村内全体で、事業実施前(2011年8月)と後(2012年6月)では、計128世帯から194世帯へと全体でトイレ保有世帯は66世帯増加しており、当団体にて支援した世帯を除くと、6世帯が実費でトイレ建設している。</li> <li>● トイレ建設支援世帯60を含む180のモデル世帯に計4回の衛生教育を行い、モデル4村に3回の衛生キャンペーンを行った。</li> <li>● 衛生教育後のモデル世帯の知識は、実施前平均52%から実施後86%へと上昇した。</li> <li>● 衛生キャンペーンへの参加者数は、のべ1237名、1村1回当たり平均103名であった。</li> <li>● 活動終了時(2012年6月)で衛生行動化できた割合は、トイレ資材支援世帯80%、モデル世帯全体としては70%、モデル世帯以外のモデル村の村人は65%であった。</li> </ul> <p><b>3. 村での保健教育活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1年間で総計123回の保健教育を開催した。</li> <li>● 保健教育参加者はのべ9596名、一回あたり平均78名であった。</li> <li>● 保健教育直後の村人の知識は、保健教育実施前平均44%から実施後84%へと増加した。</li> </ul> <p><b>4. 村と保健センターとのネットワーク支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 保健ボランティア会議を毎月開催し、保健ボランティアの出席者数は一回につき平均75.9名で、出席率は56%であった。</li> <li>● 伝統産婆会議を3か月に2回の割合で開催し、出席者数は一回</li> </ul>

	<p>につき平均 49.9 名で、出席率は 62%であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保健センタースタッフによる会議アレンジ力は、保健ボランティア会議で平均 91%、伝統産婆会議で平均 92%であった。</li> </ul> <p><b>5. 搬送サービス導入</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タノッチュム保健センターから州病院などの他医療施設への搬送件数は、2012 年 4 月から 6 月の三カ月間で計 11 件、月平均 3.7 件であった。</li> <li>タノッチュム保健センター管轄内の村からタノッチュム保健センターへの搬送件数は、同三カ月間で計 3 件、月平均 1 件であった。</li> <li>初回搬送ケースは、保健センターから保健行政区病院へ出産のための搬送であったが、搬送途中で搬送カート内で出産となった。保健センターから他医療施設へ搬送する場合は保健センタースタッフが同乗しており、このケースでも保健センター助産師が車中で無事に取り上げる運びとなった。</li> <li>雨期に入るとぬかるんだ道路状況では運転もかなり難しくなり、また村人たちもそのような道路状況では搬送カートや他の乗り物に乗ることさえ拒否していることもあり。</li> </ul>
(4) 持続発展性	<p>母子保健ボランティアの育成については、新規育成後のフォローアップ活動にも力を注ぎ、訓練を行うのみでなく、実際にその後も学んだことが現場で活かされるようにサイド・バイ・サイドで支援しています。また、保健センターや他の保健ボランティアスタッフとも連携を深めるために、母子保健ボランティアの既存の保健ボランティア会議へ参加推進を開始しています。これらの活動を通じて、地域に根付いた母子保健ボランティアとなるよう、目指しています。</p>